



病児保育協議会

NEWS

全国病児保育協議会ホームページ <https://www.byoujihoiku.net/>

第123号

2025年(令和7年)1月1日

発行人：会長 杉野茂人
(みるく病児保育センター)発行：一般社団法人 全国病児保育協議会
〒860-0059 熊本県熊本市西区野中2丁目12-26
みるく病児保育センター内
電話・FAX：096-352-5837

新年のご挨拶



(一社)全国病児保育協議会 会長 杉野茂人

杉野クリニック みるく病児保育センター



あけましておめでとうございます。令和6年7月の社員総会において、2期目の全国病児保育協議会会長を拝命しました。微力ながら、引き続き、会員の皆様安心して子どもたちをお預かりできますよう頑張りたいと思います。

昨年の第34回全国病児保育研究大会は、7月14-15日、横井 透会頭にご尽力いただき、金沢大会が開催されました。1月の地震の影響が残る中、会頭をはじめ、実行委員やスタッフの皆様のご努力で、安全に、盛大に開催することができました。会頭をはじめ関係者の皆様にご心より感謝いたします。また、日本中の各施設から参加していただきました会員の皆様には研修・研究、観光にと大変充実した大会に満足していただけたことと思います。

今年は、7月20、21日に愛知・名古屋、ウインクあいちで、松川武平会頭にお世話になり全国病児保育研究大会を開催致します。

メインテーマは「描こう！病児保育の未来予想図～子育てを楽しめる社会を目指して～」です。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

さて、本協議会では、これまでも 1. 組織の強化 2. 病児保育室の安心・安全な運営 3. 病児保育学の確立 を克服していくべき課題として取り組んできております。

組織としては、全国に7つのブロックがあり、ブロックごとに社員が決められています。またブロックを越えて全国的に活躍されている社員もいらっしゃいます。各ブロックと社員の方のお名前はホームページ上に記載されていますので、自分の所属する地域のブロックの社員の方を確認し、地域における課題を協議し社員総会などで提案、議論していただきたいと思っております。また支部会の活動については新たに規定を設けますのでご確認ください。

子育ての諸問題に関しては、本協議会としても、こども家庭庁、こども家庭審議会子ども・子育て支援等

分科会に参加しており、具体的には、認定こども園・幼稚園・保育所等への財政支援等を通じた施設整備、公定価格や設備運営基準の設定のほか、地域子ども・子育て支援事業の推進等を通じた子ども・子育て支援環境の整備等について協議を行っています。こうした観点から、こども大綱の策定に向けた中間整理案に関して、当分科会から病児保育に関して以下の意見を頂いています。

「子育てと仕事の両立など、若い世代がそれぞれの希望に応じて、家族を持ち、こどもを産み育てることができる環境を整備していくためにも、病児保育を充実していくことは重要であるが、より利用しやすい制度としていく必要がある。他方で、こどもが病気の時に、こどものそばにいたることができる働き方ができる社会の仕組みをつくっていくことも重要。」とのこと。

また、現在、こども家庭庁では「こども誰でも通園制度」に向けて準備が進められています。しかし、実際の子育て家庭において、保育園に入園しても、子どもたちは、年中、問題なく登園できているわけではありません。様々な病的状態をかかえて通園できない時、頼れるのは病児保育だと思います。やはり、「こども誰でも通園制度」も、制度として必要かもしれませんが、安心して子育てをしていくためには、「こども誰でもいつでも病児保育」を確立する必要があると思っております。安心して2人目、3人目を産み育てることができると、本当の少子化対策になると思っております。

既に、国も基礎額の増額、キャンセルに対する加算等対応して頂いていますが、利用者は伸び悩んでおり、各施設の運営は非常に厳しいものがあります。保育士の処遇改善は進んでいますが、病児保育士の処遇改善はほとんど手付かずの状態です。利用時の自己負担額の軽減、キャンセルの問題など、より利用しやすい「こども誰でもいつでも病児保育」を引き続き提言していきたいと思っております。

少子化が顕在化する中で病児保育の立ち位置は



(一社)全国病児保育協議会 副会長 佐藤 勇
感染症対策委員会 委員長

よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり



病児保育をはじめ、小児に関連する領域は例外なく少子化の波に呑まれています。日本小児科医会は会員数の減少がみられています。小児科医数は一見増加しているようにみえますが、年代別に見ると49歳以下は増加しておらず、50歳以上で増加が見られています。つまり高齢化は顕著で、35歳未満の医師数に限ると39診療科中ワースト3位です(日本医事新報より)。幸い病児保育に直接関わる医師は中堅層以上で、まだ人材は豊富と思われまます。この状況のうちに、「病児保育の魅力」を積極的に医学生に伝え、小児医療の魅力の一つに数えられるような状況をつくりたいと願っています。

会員の先生方の中には、医学部の学生実習に関わっておられる方も多いたと思います。病児保育室で初めて乳幼児を抱いた学生の笑顔に接したことがあるで

しょう。私に関わっている新潟大学医学部では、地方に残る研修医が少ないことから、定員を大きく増やす計画です。是非はともかく、増えた人数の教育は学外への依存度が増えると思います。できれば、入学早々の時期に多様な小児科診療の一場面として、病児保育を経験させ、小児科医としてのキャリアパスを示したいと目論んでいます。小児科を志望する学生が少ない理由の一つに、小児科臨床の魅力がまだまだ伝わっていないことがあると思うからです。

少子化の中で、病児保育のニーズは増えています。就労支援の側面もありますが、若い世代の経験不足(周りに子育てをする人が減り、見よう見まねができない)により、病気の時の不安感が強いこともその一因だと思います。そんな今こそ、私たち病児保育の出番かもしれません。

心の栄養をたくわえましょう



(一社)全国病児保育協議会 副会長 佐藤 里美

さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ



杉野会長による協議会新体制のもと前期に引き続き副会長を拝命いたしました。会長および事務局を補佐し、協議会のお力になれるよう引き続き努力して参ります。今期も「健やか親子21」関連業務を引き続き担当させていただき、こども家庭庁や健やか親子21推進加盟団体からの情報提供を、加盟施設へのメールやメルマガを通して皆様に随時お知らせしていきます。また資格認定委員会と倫理委員会の担当副会長として執行部と委員会との情報共有を密にし、円滑な委員会運営に関わっていきたくと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて保育室では、泣き声、笑い声、毎日にぎやかな声が響いています。そんな保育室を見渡してみると、お気に入りの絵本を抱えて嬉しそうにしている子ども、寝転がってパラパラとページをめくっている子ども、本棚から次々と絵本を出している子ども、そしてようやく決まったかのように「先生、これ読んで〜。」と声がかかります。絵本は「心の栄養」と言われます。子どもを膝にのせて本を読んでいる時の肌の温もり、読み手と子どもの息づかい、時々顔を見合わ

せた時に感じる「言葉を伴わないコミュニケーション」、そこには情緒の安定を図る保育者と子どもとの幸せな時間があります。教育や保育のICT化が進む中、0歳児からデジタルメディアやアプリを器用に使いこなす光景をみるのが日常になりました。手渡しておけば静かだから、人に迷惑をかけないからと安易に活用されています。しかし最近ではこれらの使用が子どもの脳や心に過大な負荷をかけていることが警鐘され、IT先進国であるスウェーデンの教育現場では「脱デジタル」に大きく方向転換されつつあります。絵本の触り心地を楽しみ、話の内容に想像を膨らませ、絵とシンプルな言葉だけでは描かれない世界を自分の頭で埋めようとする働きこそ、今の子どもたちに必要なことと感じています。昨年の研究大会では広報委員会による「みつめなおそう絵本のせかい」が企画されました。これまで何度となく読んだ絵本、話題になっている絵本など様々あり、あらためて読み直してみようと思いました。時間に追われる生活の中で、皆さんも少し意識して「心の栄養」をたくわえる時間を増やしてみませんか。

新春挨拶



(一社)全国病児保育協議会 副会長 荒井 宏治
調査研究委員会 委員長

あらいこどもクリニック/眼科クリニック 病児保育室きりん



今年度から全国病児保育協議会の副会長も併任することになりました。調査研究委員会に関しては、これまで10年以上にわたって所属し、協議会施設の実績や実態の調査分析を行ってきました。そのような知識や経験を協議会全体の運営にも生かしていこうと思います。

これまでの調査から全国病児保育協議会加盟施設の特性は、施設形態は医療機関併設型が約70%と多く、病児対応型が85%、75%が自治体からの交付金受給施設であることです。また利用率は高く、預かり児のほとんどが3歳未満、病気の種類や重症度が多彩であることも特徴です。また加盟施設には病児保育の規範的な施設や先駆的な施設が多く含まれているので、これまでの調査結果からコンピテンシー(好業績者の行動特性)を提示していくことが必要だと考えています。逆に加盟施設の中には、熱心に取り組んでいるにもかかわらず、継続が難しいと感じている施設があります。行政にそのような施設の現状を理解

してもらい、病児保育を続けていけるように訴えていきたいと思っています。その原因の一つとして、協議会施設の保育士数の平均は、1人の保育士が保育看護する預かり児の人数が1.5人(厚生労働省の要綱の基準は3人、キャンセル加算もその基準で計算されています。)で、小さい子や病状が不安定な子に対して安全で手厚い保育看護ができるように常時人員を確保せざるをえないことがあります。そのために現状の交付金では、人件費を賄うことができず、60%の施設は赤字となっているのです。したがってある程度の実績と信頼がある施設は、病児保育室のスタッフの人件費に足りるだけの交付金の定額制にするべきと思っています。

ただ最近の調査研究委員会による調査の回収率が50%程度に低迷していて、非常に心配しています。なぜならこれ以上低下すると統計学的に調査結果を協議会施設の状況として示すことが困難になるからです。どうか今後ともご協力をよろしくお願いします。

未来を語ろう



(一社)全国病児保育協議会 副会長 高橋 広美

幼保連携型認定こども園すなはら 病後児保育室とまと



2025年、少子高齢化人口減少が到来し、働き手不足が問題になり社会全体が厳しい状況を迎えようとしています。教育・保育施設は待機児問題から、現在は定員が満たない状況が起きています。都市部でもそうですので、地方の施設運営は厳しいものと推測されます。しかし、必ずしも少子化のみが影響するのではなく、重大事故、不適切保育などの不祥事や後継者がいないことも、園存続が難しい状況と呼びます。児童福祉施設は2023年度から事業継続計画(BCP計画)が努力義務となりました。用意はされていますか。

コロナ禍後、以前の様に病後児の利用が伸びません。経営的な面で考えると痛手ではありますが、働き方の変化で休暇が取りやすくなったり、在宅勤務が増えたりで、自宅でこどもを看ることができるようになったのであれば幸せなことと言えます。利用する分母が減ってきているわけですから、以前のような稼働率は望めないのは当然で、病児病後児保育の

目的や、やり方を考え直さなければますます先細りになってしまいます。施設長とスタッフで今後の在り方を検討されていることと思います。

病児保育と病後児保育が共に連携し合いましょう。地域に病児と病後児保育室があることが理想です。病気の際は病児保育室で、回復期になったら病後児保育室で過ごしながら、こどもの体調に合わせた保育は、集団保育にスムーズに戻って行くことができます。本来の目的であるこどもの健康支援と保護者の就労支援、加えて、地域の子育て中の親子のための子育て支援について、互いに力や知恵を出し合い協力して、特色ある子育て支援を展開しましょう。

あなたは10年後の病児病後児保育の姿が描けますか。悩みの中にいるとするなら、仲間と共に未来を語り合おうではありませんか。それが原動力になって10年後を創り出すのですから。

広報委員会



広報委員会も刷新！

広報委員会 委員長 藤本 保

大分こども病院 キッズケアルーム



広報委員会として年間5号の協議会ニュースの発行を継続するほか、タイムリーなメールマガジンの発行、Facebookの更新、会員情報システムの管理窓口としての業務、新たなことに取り組む準備を進めることは当然としても、まず最初に行うべきことは、ここ数年の懸案として挙げてまいりました委員長の交代です。顧問となった者が、後任が見つからないために委員長を務め続けているという歪な状態を解消しなければなりません。新たに理事になられた方に率先して名乗り出てほしいと願っています。

また、各ブロックから少なくとも1名は委員になっ

ていただきたいと希望します。新しい風を吹かせてほしいとずっとずっと念じています。

「病児保育」の認知度こそ上がってきましたが、全国病児保育協議会の名と活動を知る人は我々が思うほど多くないように感じます。さまざまな形態の施設が集まって構成するこの組織がバラバラになってしまわないように会員間で情報共有をしながら手をつなぐ助けとなり、社会に我々のことを訴える真に効果的な広報活動が必要です。我こそはと思う方の手挙げを一日千秋の思いで待っています。

安全対策委員会

病児保育の安全管理はアナログとデジタルの二刀流で



安全対策委員会 委員長 保坂 泰介

保坂小児クリニック 枚方病児保育室くるみ



近年、園や学校の安全管理で活用できる、多くのデジタル機器が開発され導入されるようになりました。園児バス置き去り事件を契機に導入が義務化された置き去り防止装置は、こども家庭庁に製品リストが公表されていますし、午睡の状況をモニターする機器や、また不審者の侵入を監視するカメラ類などがあります。最近では、園内の事故やトラブル監視用に、室内モニターカメラを設置する園も増えているようです。

実際、これらの機器は、事故防止効果がありますし、モニター類などは、万一事故が起こった際にも、事故発生当時には不明だった事故原因を特定できたり、事故前後の現場の状況を確認することができ、それにより次の事故予防の取組に役立てることができます。なにより、デジタル機器の導入により多忙な職員の負担軽減につながります。

しかし、デジタル機器にも弱点はあります。それは、突然の故障や誤動作、電池切れや停電による電力不足、通信障害、といったリスクがあることです。また、

そのデジタル機器に依存しすぎて、本来職員自身がやるべき、目視での確認やダブルチェックといった、いわばアナログ的な事故防止対策がおろそかになってしまう、といった恐れもあります。

「鬼に金棒」といった言葉があります。これは強い鬼が、強力な武器を手に入れば最強、といった意味ですが、鬼自身がもし弱ければ、強力な武器も有効活用できませんよね。

やはりどんなにデジタル機器が発展しようとも、病児保育における安全管理の中核となるのは、職員自身の事故防止への意識と実践、といった従来からのアナログ的取組であり、デジタル機器は補助的ツールという位置づけであることを、今一度、理解していただきたいと思います。そのうえで、これらアナログ的取組とデジタル的取組の特徴を、各々の病児保育の状況に合った形で連携させ、こどもの安全第一な病児保育運営を進めていってほしいと願っています。

機関誌編集委員会

熱意とエネルギーへの対応を目指します



機関誌編集委員会 委員長 羽根 靖之

医療法人童心会 よいこ病児保育室



機関誌は、今年第16号を発行予定で現在編集活動をしています。私は編集委員長となって約半分の機関誌発行に関わってまいりました。慣れないこともありましたが、いくつかの失態もあつたりで反省することの方が多かった気がしています。今年こそは後悔しない機関誌発行を目指して行きたいと思えます。

ところで、私自身は資格認定委員会にも属し、面接試験にも立ち会うことがあるのですが、受験生の方の小論文のレベルは専門士資格試験が始まった頃よりもレベルアップしている気がします。その反面で、施設内で査読して頂いてるのかなと疑問に感じる場合もあります。

私のつたない経験ですが、論文執筆は著者にとつ

てのトレーニングにもなりますが、それを査読して頂くことがさらに著者にとってのトレーニングになると思いますので、論文は施設内のチームワークと考えて是非上司や施設長の方が査読して頂き、著者の論文執筆のトレーニングとなり、今後益々論文を執筆しようというモチベーションアップにつなげていただけますことをお願い申し上げます。

論文には、著者のエネルギーが注入されています。著者の論文への熱意やエネルギーを感じることができると、そして、施設ぐるみでしっかりと取り組んでいると感じさせられるような投稿が増えますことを祈念申し上げ、私どもも、その熱意やエネルギーに応えられる機関誌づくりを目指しますことを今年の抱負したいと思います。

資格認定委員会

真の病児保育を探求し続けます！



資格認定委員会 委員長 永野 和子

みるく病児保育センター



協議会が「安心安全な病児保育」のために開始した認定病児保育専門士制度も12年目を迎え、全国で500名以上の病児保育専門士が、全国各地で活躍しております。

国は、子育て支援政策の中でも、「病児保育」を重要項目に挙げ、また、先の衆議院選挙でも「病児保育の充実」を公約に上げた政治家の方も多くおられました。その様に注目を集める中で、実施施設も増え、また実施形態の多様化が見られるようになり、30年前は医院併設型が主流でしたが、現在は保育園や株式会社など様々な形態で病児保育事業に取り組む姿が多くなりました。



その現状下で、当協議会が掲げる「健康であつても病気のときであつても、子どもの

トータル・ケアが保障されること」を最優先として、子どもたちに質の良い病児保育を！との思いで、専門士資格認定講習会を毎年開催しています。



資格認定委員会では、常に、講習の見直しを行い、受講生にとって何が良い病児保育につながるのかを検討し続けています。

昨年からの一環として、実習・実技を中心に講習会を開催し、考えてみる、皆で検討してみるなどの形を多く取り入れました。自分で考えてみる、他施設の話聞くことは大きな学びとなったことと思います。

また、今年のお知事大会では例年通り「病児保育専門士のスペシャルインタレストセッション」を開催いたします。このスペシャルインタレストは病児保育専

門士のスキルアップ研修企画として認定され、病児保育専門士の方だけが参加することができ、資格更新ポイントが加算されるものです。今年は、講師に一般社団法人キャリアヘルス研究所 代表理事 谷口真紀先生をお迎えして「病児保育のチームマネジメント」施設長・リーダーの立場で病児保育のチームの円滑な

運営のためのマネジメントができるようになると題して開催予定です。

今後も、質の高い講習会を開催し、全国各地で安心安全な病児保育が展開されるよう、委員一同、努力してまいります。

研修委員会



研修委員会委員長就任のご挨拶

研修委員会 委員長 **森田勝美**

富山市まちなか総合ケアセンター 富山市病児保育室



2024年の総会を機に、研修委員会委員長の任を前委員長の横井透先生から引き継ぎました森田勝美と申します。このような大役を仰せつかり責任の重さを痛感しております。私事ではありますが、大学病院勤務時代の育児休暇明け、保育園に通う我が子の連日繰り返される発熱などをきっかけに病児保育の存在を知りました。お迎えに行った時の子どもの笑顔・様子、そして自分自身が支えられた病児保育職員のあたたかさに心動かされ病児・病後児保育に携わり支える側になりたいと病児保育に関わり、気が付けば15年経過し今までの看護師人生の半分近くこの世界にいることとなります。2015年に病児保育専門士取得、2020年から研修委員会委員として携わらせております。日頃はスタッフの一員として保育看護しているこの自分の立ち位置だからこそ気が付けること、見えてくるもの、聞こえてくるもの、感じるがあると思います。微力ではございますが、研修委員会が果たすべく業務に邁進していく所存であります。

全国病児保育協議会の目的のひとつとして「研修」があり、全国の病児保育室の保育看護の質向上、これが研修委員の職務であり、具体的には学びたい方々への援助であり、歴代の委員長の皆様が大切にしてくられた理念を研修委員の皆様とともに守り続け、そして新たな最新の動向もキャッチしながら、経験の多い少ないとか職種に限らず参加して有意義だったと感じていただける研修の内容・検討・実施を企画していきたいと考えています。

協議会ホームページ会員専用ページで視聴できる基礎研修ビデオは、昨年度から内容再検討再収録を行っており、「小児医学」「看護」「保育」「保育看護」について2025年4月に更新予定です。繰り返し「基礎」を見つめなおすことで気づきを大切に日頃の保育看護に、そして家庭看護へ繋げていただけると幸いです。今年度もオンライン研修を計画中です。ぜひ皆様の参加をお待ちいたしております。

倫理委員会



倫理委員会報告

倫理委員会 委員長 **鈴木英太郎**

鈴木小児科医院 病児保育所 すくすくハウス



学会員が臨床研究や症例報告、アンケート調査などについて倫理委員会が妥当であるかどうかの判断をします。最近、論文は倫理委員会に申請し許可を得たものだけが論文扱いとなっている趨勢です。学会発表においても倫理面での配慮が必要となっています。臨床研究は大きく観察研究と介入研究に分かれます。介入研究の場合は倫理面ではより厳しい審査が必要に

なります。病児保育協議会では観察研究の割合が高いと思います。投稿規定は学会誌に載っており、それに準じて投稿することとなります。病児保育協議会の倫理委員会承認されれば、病児保育協議会以外への学会誌への投稿も可能となります。

病児保育協議会を盛り上げるには優れた学会誌の発行が望まれます。それには会員の方々の投稿が多数

寄せられることを期待します。とは言っても難しく考えると論文投稿は出来なくなりますので、優しく考えていただくとうれしいです。具体的には、日常の病児保育で行っているなかで疑問に感じたことや、皆にお知らせしたいこと、創意工夫している事柄など身近な話題を見つけることが研究の第一歩です。グループ研究も大いに歓迎いたします。各施設の病児保育の医師が関心を持ち、コメディカルと共同で臨床研究にあ

たっていただくことを望んでいます。

今年度から委員長:鈴木英太郎、副委員長:横田俊一郎、委員に大川洋二、坂井田大洋、佐藤里美、杉野茂人、藤本保で構成されています。委員はもう少し増員したく自薦他薦問わずご相談下さい。今後の予定は第35回全国病児保育協議会研究大会in愛知にて金城やす子先生のセミナーを開催し啓発活動に力を入れたいと考えています。

保育園型委員会

本年も研究大会の保育園型セミナーでお会いしましょう



保育園型委員会 委員長 森 博

あおぞら第2保育園 病後児保育室さくらんぼ



私は、横浜にあります社会福祉法人あおぞらで標記にある園長をしております。保育園型委員長になり2年目となります。昨年の大会(in金沢)では、多くの方に保育園型委員会で開催したセミナーにご足労いただき「保育園型の保育看護とは」をテーマに職種や立場でグループ分けするのでなく、参加者の経験年数に基づく色々な方々とのグループディスカッションを行い、最後に全体討議を進めました。参加された皆様にとっては、良い時間帯を共有でき大変ありがとうございました。

今年の大会(in愛知)では、「未来につなげる保育看護」をテーマにグループ討議をしたいと現在企画を考えております。まだ十分な議論はできていません

が、大会当日に向けて着々と準備を進めているところです。～お楽しみに～そして、10年後の病児病後児保育がどう進化発展しているか。利用者の要求はどう変化しているか。制度はどうなっているか。すべての都道府県で無償になっているのか。等を予測しながら、10年前に考えたことが、今現在できていたのか?利用者であるお子さん目線で、そして、保護者の方々の声・要求によりそいながら、必要とされる保育看護を進め、利用者に喜ばれるサービス提供と保育看護が出来ているのか、過去の大会資料なども活用しながら、議論を行ない今後の病児病後児保育について皆さんと一緒に討議しましょう。愛知の大会でお待ちしております。

あり方委員会

地域に即した病児保育組織(支部)の活性化とは



あり方委員会 委員長 大川 洋二

大川こども&内科クリニック OCFC病児保育室うさぎのママ



あり方委員会は病児保育事業に関する事業全般に関して協議・研究する委員会であり、会長からの諮問を受け検討する役割を持っています。また問題点を洗い出し新規に提言することもあります。今年度は西岡敦子氏、横田俊一郎氏に新たに委員に就任して頂きました。また長らく委員を務められていた帆足英一氏のご逝去には心より哀悼の意を表し、氏の長年の功績に深謝いたします。

今年度は7月13日 金沢大会にて杉野会長から諮問

のあった定年制に関しての再検討に関する答申書を理事事に提出しました。これを参考資料として定年制に関して討議があり、定年の延長が決議されました。同理事会において県・ブロックにおける病児保育に関する支部活動について議論が行なわれましたが前回の理事会に続いて今回も結論が出ませんでした。そのためあり方委員会にて支部活動(病児保育地域組織)について検討し、支部活動に関して新たな提言を行うことを提案し了承を得ました。現在委員会にて検討中です。

巨星墜つ



2024年11月1日(金)、名誉会長・帆足 英一先生がお亡くなりになりました。

全国病児保育協議会設立は平成3年(1991年)9月のこと。全国で病児保育を実施していた14施設に声をかけ大阪に皆を集めたのが、帆足先生です。

帆足先生は当時の厚生省心身障害研究「小児有病時ケアに関する研究班」の班長として、病児保育に先進的に取り組んでいた大阪府枚方市の保坂智子先生(協議会初代会長・現名誉会長)を研究協力者の一員として研究報告書を完成させ、全国病児保育協議会の存在を国に認知させて以降の施策に反映させました。さらには『病児保育マニュアル』を監修・編纂。「保育看護」という概念を樹立し、病児保育

を学問的に位置づけました。現在の病児保育専門士の礎を築かれたのです。

情熱にあふれるご功績を讃え、そのご尽力に感謝しつつ、謹んで会員の皆様にお報せいたします。

第2代会長 藤本 保

編集後記

新年の抱負を会員に周知する本号で、帆足英一先生(名誉会長)の訃報をお知らせすることとなりました。帆足先生のご功績は皆様ご存じとは思いますが、あらためて追悼特集で讃える機会があることを願っています。この落胆から立ち直り、原点を見つめ10年後の病児保育を考え、愛知大会で大いに語り合いたいものです。

会員の皆様の本年1年が充実したものになるような協議会ニュースを作っていきます。皆様からのご寄稿に期待しています。

広報委員会 委員長 藤本 保

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会 担当：藤本 保
〒870-0943 大分県大分市片島 83-7 大分こども病院 FAX.097-568-2970
Email : byouji@oita-kodomo.jp